

.....

うきたむ考古通信

.....

2019年6月号

| | |
|------|---------------------------------|
| ■発行者 | うきたむ考古の会 |
| 事務局 | 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内 |
| | 〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117 |
| | 電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665 |

考古の会事業報告

♥総会

●5月12日(日)に考古の会の定例総会がありました。参加者は13名で、昨年から倍増しましたが、まだまだ少なく今年も残念な総会となりました。佐藤鎮雄氏が座長となって審議が進められました。協議では事務局から平成30年度の事業、決算の説明があり、佐藤庄一監事の監査報告ののち、質疑を経て承認されました。引き続き31年度の事業・予算の審議にうつり、こちらも原案どおり承認されました。今年も規約に基づき誠実に運営していきたいと思えます。

●総会后、講演に移り、大場正善氏の動作連鎖の考えに基づく宮城県駕籠沢遺跡の石器群の解釈が紹介され、国内で並ぶものがない卓越した石器製作実演が行われました。予定時間を超える中で、参加者一同が見事な石刃が剥離される瞬間を目に納めることができました。入念な準備を経た石刃の連続剥離と石刃に細部加工を施してナイフ形石器や彫刻刀形石器、搔器が作られていく過程、押圧剥離で細石刃を作り出す様子を目をこらして見学していました。実演を終えてから、旧石器の展示コーナーで実演で作られた石器と実際の出土品を見比べながら、石器についての理解が深められたという感想を述べていました。

考古の会共催事業案内

みる・きく・ふれる遺跡の旅24 「栃木県北部をめぐる旅」

6月29日(土)・30日(日)開催

※別添案内のとおりです。参加者が少ないと催行できません。考古の会と資料館の共催事業となっていますので、奮ってご参加下さい。

♥「赤ちゃん手形をつくろう」今年最高記録となりました

●恒例となったゴールデンウィークの「赤ちゃんの手形をつくろう」。今年は4月30日から5月5日までの6日間と例年より1日短かったのですが、10連休でしかも平成と令和にまたがる期日となりましたので、過去最高を記録できました。平成最後の4月30日は174個、5月1日は245個、2日が185個、3日が176個、4日が189個、5日が151個の合計1,120個となりました。

今年も例年通り手形をとる様子や手形の写真をほぼ全点毎日ホームページに掲載するとともに、会場にも前日までの写真をプリントして貼り付けました。参加者の方で画像データをご希望の方にはメールで送信するサービスを行っており、今年も多くの方々かに画像データを送らせていただいています。

●手形は当館で自然乾燥した後に、5月24日に「創造の館」に搬入しました。さらに乾燥を進め、頃合いをみて、陶芸同好会の後藤代表の手によつての電気窯で丁寧に焼成されることになっています。

●準備段階、そして、期間中にボランティアとしてお手伝い頂きました会員の皆様に、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。

♥春の遺跡めぐり

●5月24日(日)、快晴で天気予報では気温が35度になるのではないかという天候の中、春の遺跡めぐりが行われました。参加者は22名と引率2名の24名で昨年よりはやや少ないとはいえ、マイクロバスは満員状態。行先は最上郡最上町と舟形町でした。今回は遺跡めぐりというよりは、文化財めぐりかと言うべきだったかも知れません。

まずは山刀伐峠。芭蕉と逆の方、尾花沢側から峠道に入りました。歴史の道で史跡に指定されており、よく整備された道で本来は徒歩で巡るべきなのでしょうが、今回はマイクロバスで旧道を登っていきました。ところどころ歴史の道との交差する場所があり、そこでバスを止めて、上り道と下り道を眺め、頂上の駐車場に到着しました。ここで全員バスを降り、徒歩で約5分、歴史の道の峠頂上に向かいました。頂上付近を散策し、説明板を見て記念撮影後、バスに戻りました。最初の計画ではカーブが比較的緩やかな尾花沢方面に引き返す予定でしたが、急カーブの続く最上町方面に降りることで運転手さんの了解が得られたので、そのまま最上町方面に降りていきました。

芭蕉にとっては江戸からの道すがらで最初の峠道であったと思われます。江戸から平泉、平泉から最上町も山を越すような峠道はありません。山刀伐峠も標高は低く、さほど大変な道のりではなかったはずですが、山賊が出るともいわれ、地元の屈強の若者に案内してもらわなければならないほどの難所だったようです。

つぎは、堺田分水へ。嶺のない分水嶺とも言うべきところで、太平洋、日本海への運命の分かれ道となっています。葉っぱや、花卉を上流に落として、どちらに流れるか実験してみたところ、結果は約3:1で日本海のほうに負けました。

その後、堺田の旧有路家住宅（封人の家）に。建物や展示されていた当時の生活用具などを見学しました。そして時間的に余裕があったので、予定を変更して、出羽仙台街道中山越えの県境から宮城県側に越境して復元整備された歴史の道も歩いてみました。説明板には英文もありました。

ここで、47号線を引き返し、富山馬頭観音堂のある富沢地区に向きました。富山馬頭観音堂では東禅院住職の奥山さんから県指定有形民俗文化財の絵馬や同じく県指定の建造物の観音堂、県指定天然記念物のトチの木について詳しいお話をお聞きしました。絵馬の指定時に何回か調査に行き 200 枚を超える絵馬のリスト作成をした関係上、住職さんには普段公開していないものまで見せていただくことができました。

富山馬頭観音堂を後にして、昼食会場の東法田に向かう途中で車内から秋の企画展で展示予定の「かっぱ遺跡」や、本館に保管されている重要文化財水木田遺跡の位置を説明しながら農家レストラン白川みつわ会に到着しました。昼食は「田舎そば御膳」。盛りそばに天麩羅、細筍とニシンの炊き合わせ、ワラビのおひたし、漬け物、蕎麦がきの入った鶏汁とボリュームのある大変美味しい料理でした。

昼食後はやっと遺跡と呼べる「志茂の手館」へ。15年以上来ていなかったこともあり、道を探せず、急坂を登る藪こぎとなってしまう、参加者 24 名のうち主郭まで上り詰めたのは 7 人に留まってしまいました。案内人失格で、参加者の皆さんにご迷惑をお掛けすることとなりましたこと、お詫び申し上げます。頂上の広い面積の主郭、あまりにも深い堀切、高い土塁、急な切岸に目を奪われました。鉄砲による城攻めに対応した城郭といえるのではないかと考えられます。

最後は国宝縄文の女神が出土した西ノ前遺跡公園へ。しっかりした調査をしないでの盛り土による公園化にはやや疑問を感じていますが、訪れる人も多いようです。

♥ 勾玉・弓矢・石器をつくろう

●「勾玉・弓矢・石器をつくろう」5月18日に行われました。昨年に続き今年も参加者が少なく、一昨年より104名から、大きく参加者を減らし38名の参加しかなかった昨年より、さらに、参加人数を減らし32名に留まりました。

お得意様の町内各小学校の5・6年生の陸上記録会と日程が重なったのが、大きな原因と考えられますので、来年は、教育総務課に確認した上で日程を組む必要があると反省しています。

展覧会の案内

👁 特別テーマ展 「花沢A遺跡と置賜の

縄文時代中期後半の世界」

今年度の特別テーマ展は、平成29年度に発掘調査が行われ、この度報告書が刊行された米沢市花沢A遺跡の出土品を中心にして、置賜の同時期の遺跡の出土品も展示します。

花沢A遺跡の調査成果

調査期間：平成29年6月12日～10月6日

遺跡の立地：最上川と羽黒川に挟まれた自然堤防上

遺跡の範囲：南北550m、東西390m

遺跡の時代：縄文時代中期後半から後期初頭

検出遺構 : 竪穴住居跡 26 棟、土坑 276 基
出土遺物 : 復元土器 227 点、土製品 152 点、土器片 54,746 点。
打製・磨製石器 159 点、礫石器 168 点。

展示品の概要

花沢 A 遺跡——4 号住居跡の土器(深鉢形土器など 8 点)
5 号住居跡の土器(深鉢形土器など 16 点)
9 号住居跡の土器(深鉢形土器など 20 点)
12 号住居跡の土器(深鉢形土器など 3 点)
13 号住居跡の土器(台付深鉢形土器など 2 点)
土坑出土の土器(深鉢形土器など 4 点)
石器(石鏃 5 点、石錐 6 点、石匙 7 点、篋状石器 1 点、
搔器 7 点、削器 2 点、磨製石斧 2 点、礫石器 6 点など)

台の畑遺跡——1 号住居跡の土器(深鉢形土器 3 点)
2 号住居跡の土器(深鉢形土器など 3 点)
3 号住居跡の土器(鉢形土器など 3 点)
土坑出土の土器(深鉢形土器 3 点)
包含層の土器(注口形土器など 2 点)

宮下遺跡——2 号住居跡の土器(深鉢形土器など 10 点)
ピット出土の土器(1 点)

長者屋敷遺跡——10 号住居跡の土器(深鉢形土器 1 点)
1 号住居跡の土器(深鉢形土器など 3 点)
18 号住居跡の土器(深鉢形土器など 3 点)
包含層出土の土器(注口鉢形土器、漆関連土器など 7 点)

壁 面

各ウォールケースの壁面には調査時の写真や遺構の図をパネルで掲示し、展示品が理解できるように心がけます。

👤 特別テーマ展関連講座 開催要項

1. 名 称 令和元年度特別テーマ展関連講座
2. 期 間 令和元年 6 月 23 日、7 月 7 日・14 日 (日曜日)
3. 開催趣旨 『花沢 A 遺跡と置賜縄文時代中期後半の世界』の開催にちなみ、展示遺跡の発掘担当者や当該期の研究者の方に講師を依頼し、山形県内の縄文時代中期後半の様相を探ります。
4. 会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室
5. 主 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
以下の期日に開講します。開講時間は各日とも 13:30～16:00 です。
対 象 : 一般 50 名程度
参加費 : 全 3 回 1,500 円(1 回 600 円)
6. 申し込み 6 月 18 日 (火) まで当館へ (ただし部分受講の場合は開催日の 1 週間前まで)

令和元年 6 月 23 日(日)

「高島町の縄文時代中期後半の遺跡」
「米沢市内の縄文時代中期後半の遺跡」

井田 秀和氏(高島町教育委員会)
手塚 孝 氏(米沢市教育委員会)

令和元年 7 月 7 日(日)

「長井市の縄文時代中期後半の遺跡」
「小国町の縄文時代中期後半の遺跡」

岩崎 義信氏(長井市教育委員会)
阿部 明彦氏(山形考古学会副会長)

令和元年 7 月 14 日(日)

「花沢 a 遺跡の調査と出土品」
「山形県内の縄文時代中期後半の炉と土器の変遷」

佐藤 智幸氏(米沢市教育委員会)
菅原 哲文氏((公財)山形県埋蔵文化財センター)

8. 申し込み 6 月 29 日(金) まで当館へ (ただし部分受講の場合は開催日の 1 週間前まで)

館主催事業の案内

♥ガラス玉をつくろう カラムシで布をつくろう

●6 月 15 日(土)に別添ちらしで案内しました「ガラス玉をつくろう」、「カラムシで布をつくろう」が開催されます。奮ってご参加下さい。

♥古代風ブレスレットをつくろう

6 月 22 日(土)には「古代風ブレスレットをつくろう」が開催されます。

♥スクールオブジョウモン

夏休み中の 8 月 10 日(土)には 1 日を縄文時代人になって様々な体験をしようという学習会を開催します。対象は小学生です。体験メニューは昨年とほぼ同じ内容です。開講式に続いて「石器づくり実演」、「弓矢をうって獲物をとろう」、「石器を使っているんなものを切ってみよう」、「火をおこそう、縄文バーベキュー」、「ドッキーをつくろう」、「今日のおさらい」、閉講式と丸 1 日“縄文”に浸っていただきたいと考えています。

お孫さんや、お知り合いの方に、声をかけていただきますようお願いいたします。

東北情報館



特別テーマ展

『花沢 A 遺跡と置賜の縄文中期後半の世界』

入館料 一般／200円 大学生／100円 高校生以下／無料

6月8日～9月8日 うきたむ風土記の丘考古資料館 TEL: 0238-52-2585



企画展 『上杉伝来の刀剣と槍展』

入館料 一般／400円 高校生・大学生／300円 小・中学生／100円

4月16日～11月24日 宮坂考古館 TEL: 0238-23-8530



テーマ展 『古・岩手のクログネ』

入館料 一般／310円 大学生／140円 高校生以下／無料

6月8日～8月18日 岩手県立博物館 TEL: 019-661-2831



開館10周年記念特別展

『開・古代首長の棺—福島県喜多方市 灰塚山古墳の調査成果—』

入館料／200円

6月8日～7月20日 東北学院大学博物館 TEL: 022-264-6920



福島復興祈念展 『興福寺と会津—徳—がつないだ西と東—』

入館料 一般／310円 高校生・大学生／150円

7月6日～8月18日 福島県立博物館 TEL: 0242-28-6000



企画展 『新収蔵 2019』

入館料 一般／310円 高校生・大学生／150円

4月27日～7月1日 青森県立郷土館 TEL: 017-777-1588